

百人一首を書きましよう。

ちはやぶる 神代も聞かず 竜田川
からくれなるに 水くくるとは

【現代語訳】
不思議なことが多かった
神代にも聞いたことがない。
竜田川が真っ赤に括り染めに
なるなんて。

在原業平朝臣

住の江の 岸に寄る波 よるさへや
夢の通ひ路 人目よくらむ

【現代語訳】
住の江の岸に波が寄るその
夜でさえ、夢の通り路でも
貴方は人目を避け逢って
くださらないのでしょうか。

藤原敏行朝臣

難波瀉 短き蘆の ふしの間も
逢はでこの世を 過ぐしてよとや

【現代語訳】
難波瀉なにわがたの蘆あしの短いふしの間
のようなほんの少しの時間
にも、遭わないでこの世を
過ごせと、そうおっしゃる
のですか。

伊勢

わびぬれば 今はたおなじ 難波なる
みをつくしても 逢はむとぞ思ふ

【現代語訳】
こうして思い悩んでいる
今となっては同じこと、難波
の零標みおつくしのように、この身をほ
ろぼしても貴方に逢いたい。

元良親王